

平成三十年度 一般入学試験問題

国語

◎ 指示があるまで開かないこと

北海道社会事業協会 帯広看護専門学校

問題一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

不幸や不運に見舞われると、人間は誰しも自分よりもっと不幸で、もっと運の悪い人はいないものかと、無意識の裡うちに探す。不幸で不運な人間が勇気を得るのは、世間の①施ほしや同情の言葉によってでは決してない。自分よりもっと不幸で、運の悪い人間が現実げんじつに生きているという事実を知ることによってである。どうにも改善しようのない苦悩に打ちのめされているとき、人は幸福で恵まれた条件下じょうけんに生きている人々を必ずしも嫉妬しどしない。自分のとうてい及ばない存在존在に対して、人間の嫉妬の感情は②はつどうしないものである。A 自分とほぼ同じくらいに不幸な人間が、そして自分のよく知っている身近な人間が、自分より多少とも目立めだった幸運を手に入れたときに、なんとも許し難い感情が湧いて来るのを、何びとも抑えようがない。それと同時にそのような相手あいてが自分より明らかに一段と重い不幸を背負せおわされたと知った時には、同情も勿論もちろん感じるが、ほっと一安心する安堵あんずと自分へのかすかな慰めを覚える気持ちをやはり抑えることができないであらう。

不幸はとつぜん降ふって湧わいたように人の身に襲おそいかかる。しかし誰しもその不幸を必然ひつじやんの連鎖れんさの中の一つの環わと看做みせうとする。すなわち、自分の不幸はいかにしても逃れる術はなく、いかに努力しても避けることのできない宿命しよくめいだったのだ、と思ひ込むことで、ある種の心の安らぎ、あるいは安定を得ることができる。よしんばそう思うことが嘘うそだと薄々感うづいていたとしても、そう思ひ込まずにはいられない。避ければ避け得た過失かじつかもしれないのに、自ら犯した過失のために、自分ひとりが不幸に陥り、他の人は難を免れた、という事実を認めることほど、人の心を絶望的に苛さいむものはあるまい。どうにもならない不運は人を苦しめないが、うまくやれば回避かいできたかもしれないという不運ほど、人に大なる苦しみを与えるものはない。

人類の知恵はこのような宿命をどうやって③こくふくできるかを必死に考えてきた。人間の意志は現在目の前まへにある困難や、未来に予想される困難に対しては、それがどんなに大きな困難であろうとも、原理的にいつて無力ではないが、過去に起こった事柄じべいに対しては完全に無力である。たとえいかように小さな災いでも、過去にいったんそれが起こったという事実はどうにも取り消せない。意志がどんなに歯はぎしりし、口惜くしがっても、どうにもならないのは「過去」に対してである。事故で失明した人間というような場合を考えてもらいたい。過去は人間の意志にとっては致命的な定めであり、宿運である。

そこで、意志は自分が後戻りできないことへの恨みに復讐ふくしやうの念を燃もえさせた。どうしても取り返しとりつかない不運に自分が陥おつたことが、自他ともに許せないのだ。口惜くしくてたまらなくなつて、取り返しとりつかないはずの過去を何とか取り返せないものかと考え、心理的な自己説得を試みることになる。この果はてしない B の唯中ただなかから生まれてきたのが、宗教上のさまざまな救済の観念であつたといえよう。例えばその一つは、過去の不幸を取り返しがつかないと見るのは目の錯覚であると主張する。現実げんじつに起こつた不幸は、じつは存在존在しないのだ。真まに存在するのは、この現実の外ほかにある④彼岸ひがんの世界である。C 彼岸の世界を信じる者には新しい未来が約束やくそくされている。救済は未来にのみ、すなわち天国にのみある、というキリスト教的な教えがその一つである。あるいはまた、

こんな考え方もある。すべてはやがて過ぎ去る。万物は⑤るてんする。過去のどんな不幸もいずれは過ぎ去り、儚はなくなる。自分という個体の不幸も、宇宙の大きな意志から見れば米粒ほどの小さな事象にすぎないのであつて、個体が滅することによって宇宙の大きな意志はその分だけ生命を回復し、宇宙意志の全体からすればバランスが取れている。個体の苦悩などそれに比すればなにほどのものでもない。そもそも個体としての人間が宇宙意志に自分を委ねず、自ら意志を抱くから(いろいろな野心や欲望や願望を抱くから)、不幸に苦しんだりするのであつて、苦悩から逃れるためには、そもそも最初からあらゆる意志、意欲を断念だんねんするにしくはない、といったインディ的捨離ていしかり・諦観ていかんの勧めが、もう一つの⑥てんけいてんけいてきな救済の理念であるといつてよいであらう。

以上のように、個体に強つよいられる不運や不幸や悪条件が、歴史上、あらゆる宗教思想の出発点であつた。それは

人間が覆しようのない自分の過去に対してさえ、時に復讐の情を燃え立たせる、矛盾を抱えた、どうにも救い難い存在だからである。人間は自分の運命に対してさえ嫉妬し、これを自分の欲望の支配下に置こうとする存在である。そのため、救済に関するさまざまな作り話をあみ出して、自分自身を救おうとする厄介な劣弱さを擁してもいる。かくて、以上のような宗教上の数々の自己欺瞞を重ねざるを得ない⑦

所以である。

〔西尾幹二「人生について」 一部改変〕

設問一

〔 〕内、①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

〔 A 〕、

〔 C 〕

には、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と思われる語

をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア また イ それゆえ ウ ただし エ しかし オ しかも

設問三

〔 B 〕

には、どんな四字熟語が入るか。次の中から最も適当と思われる語を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 試行錯誤
イ 優柔不断
ウ 森羅万象
エ 表裏一体
オ 日進月歩

設問四

右に傍線部のある語句(a)「そのような相手」とは、どのような人間であるか。本文中の語句を用いて、三十文字以内で答えなさい。

設問五

右に傍線部のある語句(b)「不幸を必然の連鎖の中の一つの環と看做そうとする」について、以下の設問に答えなさい。

① それは、「不幸」をどのように受け止めることであるか。最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア いずれ他人も自分と同じように不幸になるのであり、自分ひとりが不幸になるのではないと考えること。

イ 不幸はたまたま小さな災い起きたせいであり、自分が回避する努力を怠ったのではないと考えること。

ウ 自分が見舞われた不幸は逃れようのないものであり、人間の力ではどうしようもなかったのだと考えること。

エ 他人が難を免れたせいで自分が苦しむことになったのであり、もとは自分のせいではないと考えること。

オ 不幸だったのではなく、気をつけていれば避け得る程度の過失を犯してしまったのだと考えること。

② 「必然の連鎖の中の一つの環」を言い換えた二字の熟語を本文中から書き抜きなさい。

設問六 右に傍線部のある語句(c)「その」の指しているものを、本文中から五字で書き抜きなさい。

設問七 右に傍線部のある語句(d)「断念するにしくはない」の意味として最も適当と思われるものを一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 断念することになるかもしれない。

イ 断念することが最も良い方法である。

ウ 断念するようなものである。

エ 断念すべきことは誰もがわかっている。

オ 断念したいと思うはずがない。

設問八

右に傍線部のある語句(e)について、「個体に強いられる不運や不幸や悪条件」が、「あらゆる宗教思想の出発点」となった理由について説明した次の文の空欄ア～ウに入る語句として最も適当なものを、本文中よりそれぞれ二字の熟語で書き抜きなさい。

人間は、過去に起こった事柄に対して(ア)であり、不運や不幸や悪条件を覆すことができなくて(イ)する。そのような自分を説得し、(ウ)するための方法として宗教的な思想が生み出したのである。

設問九

本文の趣旨として適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は、たとえ小さな出来事であろうと過去に起きた不幸を決して忘れることができず、後戻りができないことを恨み続ける。

イ 人間の意志は、現在や未来を案じるよりも、過去に起きた出来事を口惜しがったり、取り返したいと考えたりすることに向きがちである。

ウ 人間は、自分よりもはるかに幸福で恵まれた人間を激しく嫉妬したり、自分よりも目立った幸運を手に入れた人間を許し難く思ったりする。

エ 不幸に見舞われた人間は、その不幸はどうやっても避けることのできないものだったと思ひ込むことによって心の安定を図ろうとする。

オ 自分という個体の不幸は他人から見れば小さな事象に過ぎないし、運の悪いときもよいときもあって、全体としてはバランスが取れているものである。

問題一一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

京子が、いつもの時間に帰って来た。時子は反射的に京子の額に手をのぼし、熱の①うむを確かめる。京子は煩さそうに、その手を払った。

「ママ大丈夫だったよ、嫌になっちゃあ、吉川先生まで、給食の時に京子の側に来て、きつくなったら早退してもいいって言っただもの」

吉川先生には、今朝京子に手紙をことづけてある。昨夜まで熱が取れないのに学校へ行くと行ってきかないので一応行かせるが、様子が悪かったら帰して下さい、と書いておいた。時子は、吉川先生の②はいりよに満足した。しかし風邪はどうやら、治まってくれたらしい。京子の勝気な顔が、母親にとっては何よりの目安になる。

額に前髪を張りつかせたまま、冷蔵庫から勝手に麦茶を取り出して飲んでいる京子を見ると、この娘は誰に似て、こうまで気が強いのだろうか。反抗期ということもあるのだろうか。

風邪のあとの汗は、早く拭^{ぬぐ}ってやりたい。しかし、今、汗を拭きなさいと言っても、京子には自分のやりたい順序というものがあって、A 咽を③潤してからのことらしい。拭^{ぬぐ}いてやろうと手など伸ばすと、『自分でやる』と言って機嫌が悪くなるのは判っている。

時子は待つことにした。

「父さんから返事は」

「まだよ、だって今日あたり京子の手紙、④とどいているはずよ、お返事は、そうね、来週かな」

妻の手紙には、必ず返事が来るわけではない。送って欲しいものや、急用などがあれば、会社のテレックスを使って伝言してくる。

しかし娘の手紙には、必ず返事が来た。だから京子は自分が手紙を出した翌日から、帰宅するなり『父さんから返事は』と訊く。それも彼女の数多いセレモニーの一つである。

「京子、着替えてくる」

「汗、拭いてね」

「ランドセル、開けちゃ駄目よ」言いおいて自分の部屋に走りこんだ。

あっという間に制服から黄色いワンピースになって出て来た娘は、テーブルの上のランドセルから B テス

トペーパーを取り出して時子に見せる。算数のテストは百点である。傍に赤インクの仮名文字で『よくできました。おかげでやすんでいたのに、おうちでよくおんきょうしましたね』と書いてある。

「百点だったの三人だけよ」京子は自慢気に言った。

自分が満点だった時には、このように機嫌がいいのだが、九十点とか八十五点とか貰^{もら}ってきた時には、子供とも思えないほど悔しがり、『ヤスシ君は百点だったけど、あのこ、隣の子を見たの知ってるもん』等と悪口を言っ^dて、溜飲をさげている。そういう時は、時子も感情的になって叱^{なぐ}ってしまうのだが、母親がヒステリックになればなるほど、娘は⑤頑固になり、他の子の悪口を言い散らす。

気が強い子なので、扱いに疲れることは多い。思わず手をあげてしまうと、引き攣^{くわ}った顔で、C 時子の腕に噛^かみついてきたこともあった。時子の方が根負けして、冷^{ひや}たい声で『もう母さんの子じゃありません』と言いつつ傍をはなれ、D 時間をおいて見に行くと、布団を引っぱり出して芋虫^エのようにくるま^まったまま、ひくひくと泣いていたりする。

今日のテストは、⑥ かいしん の出来だったらしい。自分だけ休んでいたにも拘^かわらず、満点がとれたのが嬉しいのだ。母親としては、勿論嬉しいには違いないのだが、親^オが植^うえつけなくとも自家発電してくる娘の闘争心に、目を瞠^{みは}る気持の方が大きい。

戦争で夫を失くした時子の母が、病身に相応しくない⑦ きはくだけで、娘を育ててきた。その性根に、孫の京子の意地張りなところが直結しているように見える。

時子は、丁度、二つの勝気な血の真中にいる。

(高樹のぶ子『揺れる髪』)

設問一

内、①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

く

には、どんなことばが入るか。次の中から最も適当と思われるものをそれぞれ一つ

ずつ選び、記号で答えなさい。

ア やにわに イ まず ウ しばらく エ おもむろに

設問三

右に傍線部のある語句(a)について、「京子の勝気な顔」は何の「目安」であるか。簡潔に答えなさい。

設問四

右に傍線部のある語句(b)「拭いてやろうと手など伸ばすと、……機嫌が悪くなる」理由として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父の不在中は、母に思いつき甘えたり、わがままを言ったりしても叱られないから。
イ 心配性で過保護な母が、自分をいつまでも子ども扱いしていることに腹を立てているから。
ウ 二人きりで生活しているため、あまり母に世話をかけないように気を遣っているから。
エ 意地っ張りな上、反抗期でもあるため、母に対して素直に感謝の気持ちを言えないから。
オ 勝気な性格であるため、たとえ親であっても人にあれこれと手を出されたくないから。

設問五

右に傍線部のある語句(c)について、このときの京子の気持ちとして最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母親が感情的になるのではないかと気がかりな気持ち。
イ 母親の関心を自分からそらしたい気持ち。
ウ 母の前で、頑張ったことを自慢したい気持ち。
エ 嬉しさを隠しきれず、すぐにも褒められたいという気持ち。
オ 母親から自分のプライバシーを守ろうという気持ち。

設問六

右に傍線部のある語句(d)について、「溜飲をさげている」の意味として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 事実をはっきりさせないまま、ごまかす。
イ 不満や不快な気持ちが治まり、すっきりする。
ウ がっかりして、無気力になる。
エ 何事もなかったように振る舞う。
オ 自分の罪や責任などを他人になすりつける。

設問七 右に波線部のある語句(ア)～(オ)の比喩表現のうち、直喩(明喩)が用いられているものを一つ選び、記号で答えなさい。

設問八 本文中から、京子がまだ幼い少女であることを客観的に示す一文を探し出し、最初の五字を書き抜きなさい。